

第4章 調査資料の整理・研究および公開・活用

第1節 調査資料の整理・研究

1. 調査資料の整理

2007年度の調査資料の整理は、鹿田遺跡第13次調査（総合教育研究棟）の古墳時代初頭土器の接合・復元作業を中心に行い、特に、土器溜まりの土器組成に注目した分析を進めた。

また報告書の作成に関しては、『津島岡大遺跡18』（岡山大学構内遺跡発掘調査報告第24冊）を刊行した。『津島岡大遺跡18』は、自然科学系総合研究棟建設に伴う津島岡大遺跡第28次調査（2002年度調査）成果報告書である。同報告書では、縄文時代後期の遺物、そして弥生時代では前期水田や中期遺構の資料について成果をまとめた。

（山本）

2. 調査資料の自然科学的分析

2007年度における自然科学的分析としては、津島岡大遺跡を対象とした縄文時代後期ならびに突帯文土器の胎土中のプラント・オパール分析、同遺跡第5次調査における土器表面に付着した圧痕状痕跡の分析、そして、同遺跡第30次調査では、珪藻分析と放射性炭素年代測定を行った。また、分析結果としては、津島岡大遺跡第28次調査における植物珪酸体分析・花粉分析・放射性炭素年代測定結果を報告することができた。

土器の胎土中のプラント・オパール分析に関しては、宮崎大学宇田津徹朗氏と愛媛大学田崎博之氏の科学研究への資料提供である（後述）。資料は、縄文時代後期土器と突帯文土器をあわせて合計37点である。津島岡大遺跡第5次調査地点出土では、縄文時代後期に属する土器の胎土中からプラント・オパールが検出された報告がなされており¹⁾、縄文時代の植物栽培に関する本研究においての結果が注目される。

圧痕分析は、縄文後期土器に付着した植物圧痕の可能性があり、田崎博之氏のお世話になった。資料は津島岡大遺跡第5次調査地点出土の縄文後期土器である。

分析結果の報告は、津島岡大遺跡第28次調査において実施した（2003年1月土壌採集）植物珪酸体分析・花粉分析・炭素年代測定の結果である。その報告は、年度末に刊行した『津島岡大遺跡18』に掲載した。同分析は平成14年度～15年度科学研究補助金、基盤研究（C）（2）「縄文時代から弥生時代における景観比較と植物遺体の標本化」（研究代表山本悦世）によるものである。

（山本）

註

- 1) 藤原宏志1994「津島岡大遺跡出土土器に関するプラント・オパール胎土分析」『津島岡大遺跡』4 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第7冊 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター

3. 調査資料の保存処理

a. 木製品のPEG保存処理作業

2007年度における調査資料の保存処理としては、木製品のPEG保存処理作業を実施があげられる。

2005年8月に開始した第7期の保存処理を2007年8月に終了し、引き続いて第8期の保存処理に入った。

表4 第7期～8期の処理工程

期	年 月 日	作 業 内 容
第7期	2007年2月22日	濃度 95%
	2007年8月2～9日	濃度 100%：博物館実習で引き上げ
第8期	2007年8月9日	濃度 40%：処理開始
	2007年10月2日	濃度 50%
	2007年12月3日	濃度 60%
	2008年1月31日	濃度 70%
	2008年3月31日	濃度 80%
	2008年5月9日	濃度 90%
	2008年6月10日	濃度 95%
	2008年8月4・6・8・12日	濃度 100%：博物館実習で引き上げ

表5 既往の保存処理一覧

期	処理期間（延べ期間）	処理対象調査
第1期	1992年2月～1993年11月 （1年9ヶ月）	鹿田遺跡第1次（附属病院外来診療棟）、第2次（NMR-CT室）
第2期	1994年6月～1996年8月 （2年2ヶ月）	鹿田遺跡第3次（医療短期大学部校舎）・第4次（医療短期大学部校舎周辺配管）・第5次（管理棟）、津島岡大遺跡第3次（男子学生寮）・第5次（大学院自然科学研究科棟）・第6次（工学部生物応用工学科棟）
第3期	1996年12月～1999年6月 （2年7ヶ月）	鹿田遺跡第3次、津島岡大遺跡第3次・第6次
第4期	1999年7月～2000年12月 （1年5ヶ月）	鹿田遺跡第3次・第4次、津島岡大遺跡第3次
第5期	2001年1月～2002年3月 （1年2ヶ月）	鹿田遺跡第3次・第4次、津島岡大遺跡第3次・第9次（工学部生体機能応用工学科棟）・第10次（保健管理センター）・第12次（附属図書館）・第13次（福利厚生施設北棟）
第6期	2002年11月～2004年8月 （1年10ヶ月）	鹿田遺跡第7次（医学部基礎棟）、津島岡大第19次（コラボレーション・センター）・第22次（環境理工学部校舎Ⅱ期）
第7期	2005年11月～2007年8月 （1年9ヶ月）	津島岡大遺跡第23次・24次（文化科学系総合研究棟）

第7期は2007年2月には95%に濃度を上げた。その後、蓋をあけた状態で徐々に100%の濃度へ到達させた。その状態で8月まで処理を継続し、8月2日～9日に実施した博物館実習において、3回に分割して引き上げを行った。

第8期は、第7期の処理作業を終了後、引き続いて2007年8月9日から開始した。保存処理対象の遺物は、津島岡大遺跡第23次調査から出土した縄文時代の木材（河道出土の杭・流木）および同遺跡第15次調査で出土した弥生時代前期の杭（河道出土）である。開始にあたっては、博物館学の実習作業の中に組み込んで、木器のつけ込みを行った。PEG濃度は40%から開始し、1ヶ月に10%の上昇を基本として作業を進めた。2008年5月にほぼ90%に達し、6月には最後のPEGを投入して95%とした。その後は、蓋を開けた状態で徐々に100%へと濃度を上昇させ、7期と同様に8月に行う博物館実習において木器の引き上げを行った。

なお、本年度は外部委託による保存処理は実施していない。（山本）

第2節 調査成果の公開・活用

2007年度は、岡山市デジタルミュージアムにおいて、「岡山大学埋蔵文化財調査研究センター20年の発掘成果展」を開催した。キャンパス発掘成果展としては11回目にあたる。学外に本格的な会場を求めた初めての試みであった。その結果、開催期間の10日間で合計2,000人を超す見学者があり、好評を博した。そのほかに、大学生の博物館実習や中学生の職場体験を受け入れるなど、学校教育現場との連携も積極的に行った。遺物あるいは写真資

料などの貸し出しの点数も比較的多い年であった。さらに、年度末には、『岡山大学埋蔵文化財調査研究センターの20年－自然と人間、地中に埋もれた命の対話－』を刊行した。本センターの調査成果あるいは事業内容などを総括的にまとめた冊子である。

以上のように、本年度は調査成果の公開・活用の点で特筆に値する成果をあげることができた。

1. 公開・展示

a. 展示会

①岡山大学埋蔵文化財調査研究センター20年の発掘成果展：2007年6月5日～17日

経緯と概要

2007年は、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター設置20年にあたることから、その記念事業が計画され、発掘成果展がその中心的柱となった。展示にあたっては、発掘成果を一同に公開するために必要な会場を、学外の本格的な博物館施設に求めることとなった。そして利便性の高い岡山駅西口に立地する岡山市デジタルミュージアムにおいて、同博物館と共催で開催することとなった。開催期間は、2007年6月5日～17日の10日間（10時～18時）とした。

こうした計画がもちあがったのは、2006年12月末～2007年1月初旬であった。それを受けて、2007年1月に具体的な企画が緊急に検討されたが、同時期が、発掘調査報告書の作成時期と重複することとなり、本格的な作業に入ることができたのは、3月中旬であった。4月に入ると、パンフレットの作成あるいは展示のパネルや模型などの作成へと、急ピッチに作業は進行した。その間、運営委員会あるいは大学本部から、様々な形での支援を受けながら、開催へとこぎ着けることができた。

展示のテーマは「自然と人間、地中に埋もれた命の対話」とし、縄文時代～近世までの人びとの歩みを描き出すことを目的とした。展示の内容に合わせて4つのセクションを設けたが、いずれの展示においても、このテーマを軸におきつつ、展示方法にはそれぞれに工夫を凝らした。また、考古学からの視点のほかに、他分野の研究成果との連携にも重点を置いた。これに関しては、環境理工学部の沖陽子教授・農学部の加藤鎌司教授・理学部の鈴木茂之准教授のご協力により、多角的な展示が可能となり、見学者に新鮮な興味となって展示の効果を高めることができた。

また、展示のほかに、6月10日に「鹿田、古代・中世のにぎわい」、17日には「津島、自然のなかの縄文人」と題した講演会を開催し、本センター教員のほかに、千葉喬三学長・沖陽子環境理工学部長・久野修義大学院社会文化科学研究科教授あるいは学外からは岡山市教育委員会の草原孝典氏を講師に迎えた。

会場は、開催期間中に2,161名の見学者で賑わった。具体的な内容は、「第3章1.「20年の発掘成果展」における展示活動と評価－見学者アンケートの分析から－」で詳細にまとめられているので、参照されたい。（山本）

2. 資料・施設等の利活用

a. 教育機関への支援（授業などの受け入れ）

①博物館実習：8月2日～9日、8月16日（補講）

例年通り、岡山大学文学部が実施している学芸員資格取得のための授業（博物館実習）の受け入れを行った。期間は8月2日～9日のなかで6日間である。受講生全体を3グループに分けて各グループ10数名とし、それぞれ2日間の受講日程を組んだ。

授業内容は、1日目は、同期間中に実施していた津島岡大遺跡第30次発掘調査における発掘体験である。考古

資料の取り扱いにおける出発点の状況を実感することを目的とした。2日目は考古資料の取り扱いに関する専門的知識の修得を目指した構成とし、その基礎的作業となる遺物の注記あるいは接合作業などの室内作業を体験する講義内容を用意した。こうした内容は、これまでも行ってきたものであるが、今年度は、新たに出土木器の記録作業を取り入れた。実習生が自ら考古資料を観察して記録に残すという新たな試みである。基礎的な作業をこなすというありがちな受動的授業形態にとどまらないようにという工夫であったが、積極的に考古資料に向き合う作業である点で、本講義が目指す知識の取得において効果的であった。担当教員は、山本悦世准教授・岩崎志保助教・光本順助教である。また、同期間に受講が困難であった学生に対して、8月16日と10月1日の午前中、10月16日のそれぞれ補講を行った。担当は野崎貴博助教である。

②中学生の職場体験：11月20日（岡山市立高松中学校）、生徒3名

例年通り、岡山市内の中学校から、「中学生の職場体験」の受け入れ依頼が1件あった。中学生職場体験では、遺物の洗浄、注記や接合作業などの通常業務を行った。

③2007年度非常勤講師への委嘱依頼

岡山大学文学部長より、表6の要領にて博物館実習における非常勤講師への委嘱依頼を受け（2008年3月31日）、承諾した。

表6 2008年度非常勤講師への委嘱依頼内容

職名	氏名	担当科目	委嘱期間	備考
准教授	山本 悦世	博物館実習	平成20年4月1日～平成21年3月31日	通年（水曜日3・4・5限）
助教	岩崎 志保	博物館実習	平成20年4月1日～平成21年3月31日	通年（水曜日3・4・5限）
助教	野崎 貴博	博物館実習	平成20年4月1日～平成21年3月31日	通年（水曜日3・4・5限）
助教	光本 順	博物館実習	平成20年4月1日～平成21年3月31日	通年（水曜日3・4・5限）
助教	池田 晋	博物館実習	平成20年4月1日～平成21年3月31日	通年（水曜日3・4・5限）

b. 調査・研究への支援

① 資料調査および見学・視察

- ・宮崎大学宇田津徹朗准教授・愛媛大学田崎博之教授

プラント・オパール分析による農耕および環境変遷の検討を目的とした研究に対して、土器の胎土分析への資料提供を行った。資料は、縄文時代後期土器・突帯文土器である。遺物の出土地点などの詳細は、津島岡大遺跡第3次調査6点、同5次調査10点、同9次調査3点、同15次調査3点、同17次調査7点、同21次調査3点、同23次調査3点、同27次調査2点、合計37点である。（2007年12月）

- ・岡山理科大学富岡直人准教授ほか同大学学生

津島岡大遺跡第3次調査・同5次調査・同6次調査・同9次調査・同15次調査の植物種子（ドングリ）を対象とした古植物生態学研究（2008年2月）

② 図書の外部貸し出し：22件（岡山大学文学部学生ほか）

c. 資料の貸し出し

① 版物の資料提供

- ・月刊文化財 AUGUST2007VOL.176 第一法規株式会社

埋蔵文化財最前線 弥生前期特集 金田善敬「弥生時代開始前後の岡山平野」

「水田畦畔1」全景写真：『津島岡大遺跡』14（岡山大学埋蔵文化財調査研究センター編集・発行 2004年）

P94 図90

- ・岡山市デジタルミュージアム特別展「うるしの技 木の技-おかやまの木工芸いまむかし-」展示関連刊行物

…写真2点

「木製漆塗り短甲」鹿田遺跡第1次調査 井戸15（古墳時代初頭）

「蒔絵横櫛」鹿田遺跡第12次調査 土坑（近世）

・岡山県瀬戸内市発行『邑久町史通史編』…写真2点

「貯蔵穴に埋設された貯蔵穴」『津島岡大遺跡』4 岡山大学構内遺跡発掘調査報告 第7冊

「図版25 石器4 S109・309」『津島岡大遺跡』16 岡山大学構内遺跡発掘調査報告 第21冊

・月刊プラザ岡山

③ 他機関の展示・公開支援

・岡山市デジタルミュージアム特別展「うるしの技 木の技—おかやまの木工芸いまむかし—」

(2007年9月～11月)

「漆塗り縦櫛」津島岡大遺跡第5次調査 貯蔵穴SP2（縄文時代後期）

「木製漆塗り短甲」鹿田遺跡第1次調査 井戸15（古墳時代初頭）

「蒔絵横櫛」鹿田遺跡 第12次調査土坑（近世）

「曲げ物」鹿田遺跡第7次調査 井戸3（古代末）

「曲げ物」鹿田遺跡第6次調査 SW1（中世）

・岡山市立京山公民館

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター20周年特別展「自然と人間 地中に埋もれた命の対話」における展示品および講演「津島自然の中の縄文人」の映像撮影（2007年6月）

(山本)

第3節 2007年度調査研究員の個別研究活動

1. 科学研究費採択状況

山本悦世：基盤研究C「弥生時代～中世の景観復元と社会における生業の位置づけに関する基礎的研究」 研究代表者

岩崎志保：基盤研究C「弥生時代～中世の景観復元と社会における生業の位置づけに関する基礎的研究」（研究代表者：山本悦世） 研究分担者

2. 論文・資料報告

山本悦世：「瀬戸内～四国地方出土の植物遺存体」『日本考古学協会2007年度熊本大会研究発表資料集』日本考古学協会2007年度熊本大会実行委員会

「津島岡大遺跡における植物珪酸体分析」『岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要2006』岡山大学埋蔵文化財調査研究センター

『弥生時代～中世の景観復元と社会における生業の位置づけに関する基礎的研究』科研報告書

岩崎志保：『津島岡大遺跡18』（編集）岡山大学埋蔵文化財調査研究センター

『弥生時代～中世の景観復元と社会における生業の位置づけに関する基礎的研究』科研報告書

- 光本 順：The Body as Material Culture: A Theoretical Osteoarchaeology. By Joanna R. Sofaer, Anthropological Science 115 (1)
「陵墓をめぐる2007年度上半期の動向」『考古学研究』第54巻第2号(共著)
「履修希望授業科目について」『岡山大学生のジェンダー意識に関する調査』報告書』岡山大学文学部
- 池田 晋：『新上小阪遺跡Ⅱ』(財)大阪府文化財センター(編集・分担執筆)

3. 研究発表など

- 山本悦世：「瀬戸内～四国地方出土の植物遺存体」日本考古学協会2007年度熊本大会(熊本大学10月21日)
- 光本 順：「岡山市鹿田遺跡の発掘調査成果」考古学研究会岡山5月例会(岡山大学5月12日)
- 池田 晋：「弥生時代打製尖頭器の破損と用途」考古学研究会岡山12月例会(岡山大学12月8日)

4. 講演など

- 山本悦世：「古代・中世鹿田の土地区画」岡山大学埋蔵文化財調査研究センター岡山大学埋蔵文化財調査研究センター20周年記念講演会『鹿田、古代・中世のにぎわい』(岡山市デジタルミュージアム6月10日)
「縄文・弥生時代の植物利用－埋もれた種子と人々の営み－」歴風ボランティア公開講座(広島県立歴史民俗資料館9月16日)
「施設整備と埋蔵文化財」文教施設セミナー(社)文教施設協会(岡山大学11月5日)
- 岩崎志保：「くぐつまわしと猿形木製品」岡山大学埋蔵文化財調査研究センター20周年記念講演会『鹿田、古代・中世のにぎわい』(岡山市デジタルミュージアム6月10日)
- 野崎貴博：「津島岡大遺跡の縄文人」岡山大学埋蔵文化財調査研究センター20周年記念講演会『津島、自然のなかの縄文人』(岡山市デジタルミュージアム6月17日)
- 光本 順：「井戸と曲げ物」岡山大学埋蔵文化財調査研究センター20周年記念講演会『鹿田、古代・中世のにぎわい』(岡山市デジタルミュージアム6月10日)

5. 資料収集・実態調査

- 山本悦世：弥生時代集落遺跡の調査(福岡県福岡市ほか)
中世城館の資料調査(福井県福井市)
生業に関する実態調査と焼畑シンポジウム参加(宮崎県椎葉村)
- 岩崎志保：中国戦国時代青銅器の資料調査(京都市泉屋博古館)
大学博物館の実態調査(広島大学総合博物館)
- 野崎貴博：中・後期古墳の踏査・埴輪の実見(群馬県)
- 光本 順：英国の遺跡・博物館に関する実態調査
弥生時代資料に関する資料調査および中世遺跡の踏査(福井県)
- 池田 晋：弥生時代武器形石器の資料調査(奈良県・滋賀県)
大学博物館の実態調査(広島大学総合博物館)